

よぶこどり
呼子鳥



かむなび いはせ もり よぶこどり
神名火の 伊波瀬の杜の 呼子鳥

いたくな鳴きそ 我が恋まさる

卷八一四一九 鏡王女

歌意 神がくだる伊波瀬のやしろの森で呼子鳥よ、そんなにひどく鳴いてくれるな。わが恋ごころもつのもものを

呼子鳥はカッコウ科の鳥4種（カッコウ・ホトトギス・ツツドリ・ジュイチ）を言うらしく、特にカッコウ・ツツドリの歌語となっています。そこで、歌われている内容から、どちらの鳥か判断することになります。

託卵性のあるホトトギス科の鳥は託卵したままにしておく、卵から孵った雛は、仮親の鳴き方をするか、仮親と本当の親の入り混じった鳴き方をするかですが、託卵した親は雛が孵ったその時から、託卵したその巢の側で雛が巣立つまで子を呼んで鳴き続けます。

伊波瀬の社所在といわれる数箇所を調べるといずれも標高150メートル以下、山が浅くてホトトギス生息地ではなく、伊波瀬の社の呼子鳥はカッコウです。